



カタカタ通信

第139号

マイクロプラスチックってなあに？

2024年8月26日

先日、夏休みイベントのひとつとして「マイクロプラスチックでキーホルダーをつくろう！」を行いました。イベントを実施するにあたり、わたしも改めてよく調べてみたので、今回はこの「マイクロプラスチック」について書いてみようと思います。

皆さんは「マイクロプラスチック」という言葉を耳にしたことがありますか？「マイクロプラスチック」とは、プラスチックごみのうち大きさが5mm以下のものをいいます。地上で出たプラスチックごみが、太陽の光や水の流れによって細かく砕かれ、「マイクロプラスチック」となります。それが川を流れ、最後は海にたどり着きます。

なので、一見「マイクロプラスチック」＝海の問題ととらえられがちで、海なし県の埼玉とは関わりが薄いように思われます。でも、埼玉には多くの河川があり、「マイクロプラスチック」は河川を経て海にたどり着きます。というわけで、我々にとっても身近な問題なのです。では、実際に荒川のごみを見てみましょう！



じゃーん！荒川のごみです

ざっと見てみても残念ながら土に還らないものがみられます。

このごみの中から「マイクロプラスチック」のみを取り出したものがこちらです。



これが実際のマイクロプラスチック！

カラフルできれいです♪でも、これらを水辺の生き物が食べ物と間違えて食べてしまうと、内臓が傷ついてしまったり、詰まってしまうこともあります。また、それらを食べてしまった魚介類を私たちが口にすることで、私たちの体に入ることもありえるのです。

とはいえ、小さなプラスチックなのでそれ自体は消化されず、そのまま排出されます。ですが、マイクロプラスチックは、海中の有害化学物質を吸着しやすい性質を持っていることが分かっており、それらが私たちの体にどのような影響を及ぼすかはまだ詳しく分かっていないようです。

「マイクロプラスチック」のもとの多くは、私たちの出すプラスチックごみです。プラスチックごみがポイ捨てされたり、ごみ集積所から雨風で飛ばされてしまったものです。過去には、野外のコウノトリのくちばしにプラスチックごみが挟まってしまい、口を開くことができない状態で発見された事例もありました。

では、私たちはプラスチックごみをどうすればよいのでしょうか。

プラスチックごみは分別して捨てることでリサイクルすることができます。また、一度使ったら捨ててしまうプラスチック(ワンウェイプラスチック)の使う量を減らしていくこともまた私たちができることのひとつです。

今回のイベントではこのようなことを事前に学んだうえで、「マイクロプラスチック」を使ってキーホルダーの製作にあたりました。広い視野でとらえると、マイクロプラスチックやプラスチックごみの問題もまた、コウノトリの暮らしと関わっていることも知っていただけたかと思います。作ったキーホルダーをもとに、周りの方と今回学んだことをお話してもらえるといいなと思います。



マイクロプラスチックで作った
キーホルダー！

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：ほっぴー